



ふじみだい

自分で追求する力

校長 山本 加奈代

長かった梅雨がようやく明けた途端に猛烈な暑さとなり、口元のマスクが汗ばんできます。「暑さ寒さも彼岸まで」と言いますが、これからの一か月は特に暑さ対策にも注意していかなければなりません。

2週間の夏休みが終わり、子どもたちが元気に学校に戻ってきました。例年より短い夏休みを各家庭で計画を立てながら過ごし、気持ちを切り替えてスタートすることができました。保護者の皆様のご協力に感謝申し上げます。また、地域の皆様には登下校の様子等をいつも温かく見守っていただき、ありがとうございます。



教室を回ってみると、ある学級では夏休みに自主的に取り組んだことを発表していました。歴史に興味をもった児童が、いくつかの資料から好きな人物に関する情報を取り出して、年表にまとめていました。絵巻物のようにになっているので年代ごとに出来事が順序よく書かれ、時代の流れが聞いている児童にもよく伝わりました。紙面全体が広げられると、自然に歓声が起こりました。また、畑で収穫した野菜を観察し、その様子を伝えた児童、材料のよさを生かしながら椅子の制作に取り組んだ児童、アニメの主人公の服作りに取り組んだ児童も作品を丁寧に見せながら説明していました。自分が好きなこと、興味・関心をもったことに最後まで取り組み、どんな方法だったろうまく表現できるか、もっとよい方法はないかと考えて取り組んだ姿に感心しました。できるようになったこと、経験したことを生かして、自分なりの目標をもって追求していく力は、子どもたちが大人になってからも大切になります。子どもたちが身に付けた力が生かされ、問題を解決したり、創造したりできるように私たち教職員もしっかりと指導を続けていきたいと思えます。

各クラスでは学級目標が決まり、それぞれの教室に掲示されています。どの目標にも子どもたちや担任の願いが込められていて、学校生活の中でいつでも立ち戻ることができる目標になっています。こんなクラスにしたい、こんな学級だったらうれしいなと話し合っただけ決めた目標ですので、一つ一つの言葉に込められた意味は深く、夏休み明けの今、子どもたちが次の一步を踏み出すときの支えとなっています。学校行事もコロナ禍で中止、変更が余儀なくされていますが、安心・安全を一番に考えながらその中でも何ができるのかを検討しています。子どもたちにとって豊かな学校生活となるように、私たち教職員も創造力を働かせていきます。

休み明けの時期だからこそ、周りの大人が子どもたちに進んで声をかけて、そして、じっくりと話を聞いてあげたいと思えます。時間が十分とれないときは、子どもと話すときに、できるだけ気持ちに耳を傾けるように心がけていきたいです。ご家庭でも取り組んでみてください。心配なことがありましたら学校も一緒に考えていきますので、いつでも気軽にご相談ください。

今月も保護者の皆様、地域の皆様、ご理解・ご協力をお願いいたします。

